

# GIS を用いた岩手県盛岡市の事業所立地分析

岩手大学 学生会員 ○武田岳 岩手大学 正会員 平井寛  
岩手大学 正会員 南正昭

## 1. 研究背景と目的

現在の日本社会は人口減少の時代を迎え、地方都市には郊外化に伴う中心市街地の空洞化といった問題が生じている。それに伴い、地方都市の郊外化に関する研究も多くなされている。地方都市により事業所の立地傾向は様々であるため、多くの地方都市における研究が必要であるが、商業地や小売業に限定した研究が多く、地方都市全域の事業所全体の立地を分析した研究は十分ではない。

本研究では、岩手県盛岡市を例として、盛岡市全域の事業所立地の調査を行い、業種別、地域別に事業所の立地の特徴を分析することにより、都市の郊外化といった近年問題となっている現象、及び盛岡市の都市計画マスタープランを考察することを目的とする。

一つの都市の中においても都市構造は地域によりさまざまであり、業種によって立地傾向は異なると考えられる。しかし盛岡市の都市計画マスタープランの中では、中心市街地活性化について卸小売業の年間販売額の検討等が行われているものの、全事業所の立地を業種別に分析することは行っていない。

## 2. 方法

### 2-1. 対象地域と使用したデータ

対象地域は平成 18 年に編入された旧玉山村を含む盛岡市全域とする。データは i タウンページから作成する事業所データベース、岩手県統計年鑑及び盛岡市統計書に記載された統計データとする。

### 2-2. 研究方法

まず現在の盛岡市全域に立地している事業所を GIS（地理情報システム）上に反映し、盛岡市内の各地域ごとに事業所の立地にどのような特徴があるかを分析する。その後、業種別にどのような立地の特徴があるかについて分析を行う。その中で、各事業所の立地分布の中心点からの平均距離の 2 乗を分散として算出す



図 1 主要 6 地区

る。そして、小売業の地区別売り場面積を調査し、最後に分析により得られた結果から盛岡市の現在の状況を把握し、どのような問題点があげられるか、及び盛岡市の都市計画マスタープランとの整合性について考察する。

## 3. 盛岡市の都市構造と産業構造

まず、盛岡市内の主要な 6 地区を選択し、盛岡駅前・大通り周辺・肴町周辺地区を中心部と定義し、盛南・都南・青山みたけ地区を郊外部と定義した（図 1）。盛岡市中心部では道路が狭く、土地が細分化され、移動は徒歩や公共交通機関が主である。一方で郊外部では主要道路やバイパスが走っており、土地が広く、移動は車が主であるという都市構造の特徴がみられる。

## 4. 盛岡市の事業所立地分布

盛岡市の事業所立地分布を GIS 上に投影し、地区別及び産業別に集計した（表 1、図 2）。大通り周辺には 2141 件の事業所が立地しており、事業所数、密度共に 6 地区中最も大きな値が見られた。

業種別の立地地区割合をみると、大通り周辺の飲食店の立地が 6 地区中の約 50% を占める（図 3）。また、中心部と郊外部とで分布傾向に違いが見られた。製造

キーワード：立地分布、業種別、都市構造

連絡先：岩手大学工学部 岩手県盛岡市上田 4 丁目 3-5 TEL：019-621-6453 FAX：019-621-6460

加工、販売卸は郊外部での立地が目立ち、飲食店は大通り周辺をはじめとする中心部に多く立地していた。

また、事業所分布の中心点からの分散については、製造加工と販売卸が平均より広く分散しており、飲食店には強い集中が見られた（図4）。

5. 小売業売り場面積の地域別比較

6 地区ごとの小売業の売り場面積比較を行った（図5）。全体的に中心部よりも郊外部の売り場面積が広い傾向が見られた。

6. 結論

本研究の結果として、事業所の立地分布において業種別の立地傾向や分散に大きな差があることが確認された。

盛岡市は都市計画マスタープランの中で、既存市街地の活性化を掲げているが、既存市街地内において地域ごとに立地に適した業種を見極める必要がある。

都市の郊外化は近年大きな問題となっている。今回の調査により、盛岡市ではサービス業においても小売業においても中心部に集中しており、事業所全体を見ても中心部に集中していることが確認された。しかし中心部、特に大通り周辺に飲食店が集中し、中心部のサービス業、小売業の割合が低くなっており、売り場面積も考慮すると実際の郊外への事業所の分散はより大きいと考えられる。これは、小売店やサービス業の店舗を目的地とする人の流れが郊外へ向かうことにつながり、中心部からの人の流出につながる。

都市構造は事業所の立地分布に影響を与える。都市の中心部と郊外部では都市構造が異なり、当然事業所の立地分布にも違いが生じる。郊外化や中心市街地活性化といった問題に対応するためには、業種により立地に適する地域が異なることを考慮する必要がある。

表1 盛岡市内の主要地区別店舗数と内訳

地区名	事業所数	内訳					
		サービス業	飲食店	小売	製造加工	販売卸	コンビニスーパー
駅周辺	589	235	161	100	68	12	13
大通り周辺	2141	553	1053	341	115	49	30
肴町周辺	1139	374	380	239	94	36	16
盛南	741	302	98	165	123	33	20
都南	1143	425	140	310	168	74	26
青山みたけ	929	364	192	197	114	44	18

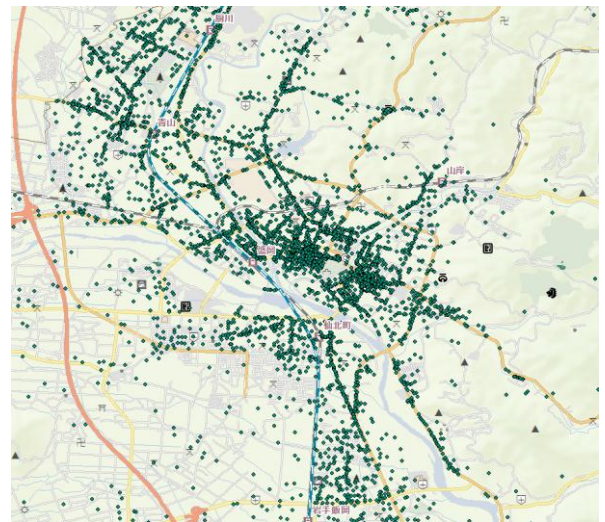


図2 事業所立地分布

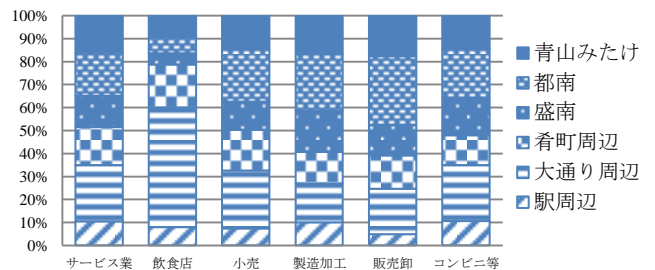


図3 業種別立地地区割合

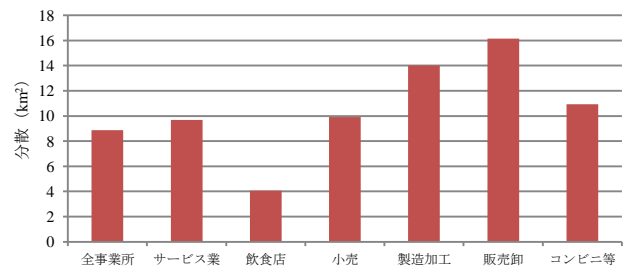


図4 中心点からの分散

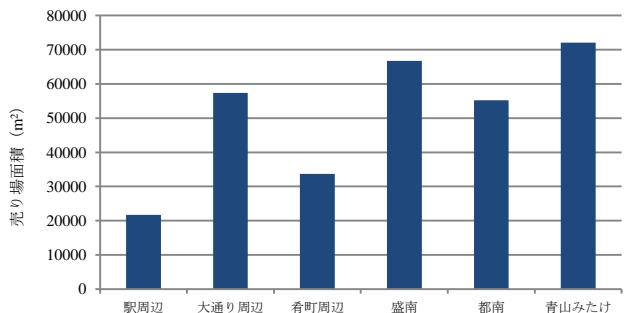


図5 小売業売り場面積

[参考文献]

- 1) 成田孝三：都市問題のいま 過密の中の空洞化，学術の動向，Vol.7, No.6, pp58-61, 2002.
- 2) 加藤晃，竹内伝史編著：新・都市計画概論 改訂2版，共立出版株式会社，2006.
- 3) 盛岡市：盛岡市都市計画マスタープラン，2010.